



むらた・ようこ (三条市) 三条市立大崎小学校の先生から、昨年度県教育庁に転出。生涯学習の推進と男女共生社会実現を目指す、県の新戦力。

やまだ・くみこ (中野ノ木2) 福島県出身。市の広報紙編集の仕事で天職と考え、住民と行政のパイプ役として、昼夜を問わず奮闘中。

シュウ・レイホン (味方村) プルネイ国出身。プルネイ民間外交官、県知事認定の国際交流ボランティア。11カ国語を話し、アジアを飛び回る。

あだち・きょうこ (大通南2) ナマステール今日主宰。店内のミニギャラリーは、写真を通じて得た広い交友関係を活用し、地域住民から好評。

# パネルディスカッション 「これからの女性の 生き方を考える」

- パネラー  
安達京子さん(ナマステール今日主宰)  
シュウ・レイホンさん(プルネイ国出身)  
山田久美子さん(市職員)
- 助言者 久保玲子さん
- 司会 村田洋子さん(県職員)

## 縦社会と横社会

司会 自己紹介を兼ねて、自分の生き方や日ごろ考えていることを話していただきます。

安達 皆さん、ナマステール。ナマステールとはインドの言葉で、こんにちはという意味です。七年前にインドに撮影旅行に出掛けた際、スチュワードレスが飛行機に乗るたびに出迎えてくれた言葉です。とっても温かくて気に入りました。インドのファンになってしまいました。それで帰ってきてから、夫や両親の理解もあって「ナマステール今日」という店を始めたのです。

この店は文房具やインドの小物、雑貨を売るほか、写真撮影などもしています。また、画廊としても使われ、多くの人と交流ができることを喜んでいきます。自由に企画して、やりたいように運営しているわけです。

私の夢は、今私の店に来てくれている五、六年生の女の子が、成人式の日「ナマステール今日

さん、記念の写真撮影してください」とお店に来てくれ、その子の素晴らしい一面を写真として残せたらと思っています。

また、夫に早めに退職してもらい、一緒にお店をやりたい、友達とのコミュニケーションが図れる場所になりたいと思っています。

シュウ 私は味方村に住んでいます。十八歳のときプルネイに出張で来た主人と出会いました。「雪が見たい」と日本について来て、いつの間にか結婚。日本に来て十一年目になりました。

私は、西蒲原郡を中心に外国人の世話役をやっています。外国の花嫁さんの帰化問題や不法滞在の問題を手掛けています。

また、プルネイの民間外交官でもあり、国際交流を進めています。日本人を連れて祖国に行き、プルネイという国を見てほしい、近隣の国の自然保護、民族問題を見てほしいと思っています。

本日の意味での国際交流を進めたいのです。

山田 市役所で「広報しろね」

チャンスをつかんで自分を磨き磨いたことをさらに広げよう 安達

国際結婚で泣く花嫁 男女平等の意識が浅い日本社会 シュウ

男と女お互いに認識し合って積極的に行動しよう 山田

自分を大切に生きていくことは相手も大切にすること 久保

なっているかご存じでしょうか。日本の男性が妻をもらえないとすると、外国から妻をもらうんです。もう一つではなく、買うのです。これは非常にいけない。まさに女性についての侮辱です。

さらに、日本に来た妻たちが幸せかというと、必ずしもそうではない。地獄です。嫁姑の問題、言葉の問題、日本の社会に溶け込めない、四、五年耐えていかなければなりません。というの、日本人は平等という意識が浅いんです。

私は二十組ほどの外国の花嫁を保護しています。その中で十二組の人たちが泣いています。現地です。日本に連れて来られたのです。私から見ると日本の社会は、男女平等の意識がまだまだ浅いと思います。

山田 女が仕事を続けていく上で一番大事なのは家庭だと思えます。私の家族は七人です。幸いみんな健康で、子供たちも手が離れ、仕事をするには一番いい時です。私は、家のことはほ

とんど母にやってもらっています。母の都合が悪ければ、主人や父にお願いしてしまおう。家族に甘えているのですが、家族も甘えさせてくれるのです。そういう甘えができる家庭で、ありがたいと思っています。

行動力を持つ 司会 最後に、これからの女性の生き方についてメッセージをいただきたいと思っています。

安達 テーマからそれるかもしれませんが、県展が七月十七日からカルチャーセンターで行われます。自分の感性を磨くために、家族連れで見に来てほしいと思います。家族共通の話題を作ること大切ではないかと思えます。チャンスをつかんで自分を磨く、磨くことを自分だけにとどめておかないで、さらに広げようということですね。

シュウ 八月二十一日に新潟空港からプルネイにチャーター便が出ます。私も一緒に行きます

を編集しています。仕事を通じて、私の感じた男と女の考え方の違いをお話しします。

市役所でも会社でも組織は全部ピラミッド型です。ピラミッド社会は男性の社会だと思えます。男性は上から言われたことに對して、自分がどうでないと、思っても、非常に素直に従う。女性は自分がどうだと思わなければ従わない。行政の組織も三角形ですから、自分の気持ち、感情で仕事をするとぶつかつたり、不都合が生じたりするわけです。すると「女はだめだ」という評価を得やすい。男性は縦社会、女性は横社会という感性の違いがあると思います。

会議を開くとしても、会議を開く前に結論を決めているのが男性。女性だけの会議を前に経験しましたが、自由に発言し、本音を語るのが女性の会議です。男性のように根回しをして会議を運ばば、失敗や落ち度もないでしょうが、代わりに新鮮な発想もないのではと、感じました。

男性と女性の違いを述べましたが、どちらがいい、悪いという事ではなく、お互いに認識しながら組織の中で仕事をしていければと感じています。

浅い男女平等意識 司会 今、男女共生という言葉

ので、本当の国際交流をするにはいいチャンスだと思えます。世界に向かってみよう、違う経験をするという意味でも、ぜひ参加してください。

山田 よく女のくせに、男のくせにと言われます。何年前にこんなことがあったんです。私の知っているある農家のお母さんが、用事をたしに市役所に来ました。そのときにこんなことを言われたんです。「部落の中で私のことを、女のくせに市役所に用事をたしに行くのか、と言われる」と言うのです。

いまだにそういうことが言われているのが、非常に悲しいと思えます。これは男、これは女といわずに、行動力を持って自分のできることをすれば、自分からやろうとする気持ちが必要ではないでしょうか。

自分を大切に生きる 司会 これまでの三人のお話を聞いて、久保さんからまとめをお願いします。お願いします。

久保 今まで女性は人のために生きてきたという時代が非常に長かったのですが、自分を大切に生きていくということが必要なのではないでしょうか。自分を大切にすることは、相手も大切にすることにつながります。相手の言動で生き

るのではなく、安達さんのように自分が育てたいと思ったことを大切に育てていく。これが相手と大切になることにつながるし、また、社会や地域や国際化にもつながっていくのでは無いでしょうか。

自分を大切にすることが、もし失敗したとしても、それは改善できます。そのときに一番いいと思ったこと、自分がやりたいと思ったことをやったわけですから、そのときの自分の最高の水準のときに行動しているわけですね。ですから、なぜ悪かったのかよく分かる。次にどうすればいいのかも分かるわけです。ところが、今までの女性のように、相手に従って生きていけば、いつも失敗の責任を相手にかぶせる。ちっとも学ばないし、成長しないんです。

先ほど山田さんが本音でしゃべると言いました。そこから創意工夫も発想も出てくると話されました。それは自分を大切にすることに通じているのではないかと思えます。ぜひ皆さんも自分の心を見つめ直して、自分を大切に生きていただきたいと思えます。

司会 この催しが皆さんの昨日を考え、今日を思い、そして明日に思いをつなげていく機会になれば幸いです。どうもありがとうございました。

